



おどろきの植物 不可思議プランツ図鑑  
《誠文堂新光社》 木谷 美咲/著



【470/7】

動物と比べて地味な印象がある植物（失礼）ですが、世界には「なんでこんな姿に!？」と、思わず目を疑うような植物がたくさんあるんです! 動物のように動けない植物が厳しい環境で生き抜くために進化していく姿は、神秘的でとても興味がわきます。

植物はレア度別に紹介されており、レア度1~3までありますが、1号はレア度2から初めて見る植物ばかりでした。ロマネスコやラフレシアはなんとなく写真で見たことがあるけど、「どんな植物なの?」と聞かれると説明できません。そんな、何となく知っているけどよく分からない…という疑問も解決!

ちょっと難しそうな感じがしますが、博士と男の子が会話形式でテンポよく紹介してくれるので、サクサク読めます。

イラストもフルカラーで分かりやすいので、はじめの方にもおすすめです!

僕が答える君の謎解き

《星海社》紙城 境介/著, 羽織 イオ/画

推理小説といえば、探偵と相棒が真実にたどりつくまでが描かれたものが定番ですが、一味違った推理小説はいかがですか?

天使のような見た目の明神凜音は無意識で犯人が分かってしまうというすごい能力の持ち主。そう、この本では、最初に犯人が分かっただけです。(びっくり!) でもどうい推理でその結論に至ったのかが彼女自身にも分からない…。そこで伊呂波透矢が明神凜音の推理を論理的に推理する…という物語です。

今までの小説と違うところは、推理した人も一緒にその推理にたどり着いた経緯を考えるところなんです。いや無意識下でなにが行われとんねん! ってなるけど、一緒にわくわくしながら読み進めることができます。そしてツン強めの明神と伊呂波の関係性も気になります…! 恋愛小説としても楽しむことができる一度で二度おいしい一冊です。

パズルのピースがハマって完成するような一つ一つ進んでいく物語、楽しんでみてはいかがですか?



【F913.6/カミ】



甲子園! 愛知4強物語  
強豪校の歴戦の記録と感動秘話  
《徳間書店》鶴 哲聡/著

始まりました、春のセンバツ高校野球(この文を書いている日からちょうど始まりました)! みなさんとそんなに歳の変わらない選手が会場を沸かせています! この中には未来のプロ野球選手もいるはずですよ。

さて、本題に…。今回はみなさんにディープな高校野球の世界を紹介したいと思います。

中京、名電、享栄、東邦。この4つの学校は高校野球ファンから「愛知4強」とか「私学4強」と呼ばれて、注目されています。

今回紹介するこの本は、その学校ごとに印象深い試合の内容やエピソードが詳しく書かれているところがおすすめポイントです。たまたま自分がテレビで見ていた試合についても書かれていて、「あの時、選手はこんな気持ちだったんだな。」とか、「堂々としていたようにみえてもやっぱり高校生だよな。」とか思ったりしました。

読み終わったころにはあなたも高校野球オタクになっているはずですよ!

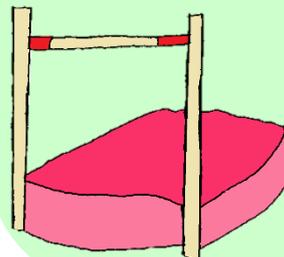
【2FYA L783.7/コ】



空は逃げない  
《光文社》まはら 三桃/著

同じ大学の陸上部で棒高跳びの選手をしている佐藤倫太郎と佐藤林太郎の二人は、同姓同名で紛らわしいのでそれぞれA太郎・B太郎と呼ばれていた。ある日、以前から二人の練習するところを熱心にスケッチしていた芸術学部の石井絵怜奈が突然、自分も棒高跳びをやりたいと言い出した。

大学時代と数年後の現在を交互に描写しながら、三人が過去や挫折と向き合い、新しい道へと進んでいく姿を描いた青春小説です。三人それぞれがたどり着いた答えに爽やかな気持ちになれる一冊です。もう一つオススメしたいのが、物語の主軸にもなっている棒高跳びの描写です。あまり馴染みのない競技だと思いがちですが、一連の動作の描写が丁寧で、競技中の映像がスッと頭に浮かんできます。



林太郎は作中で棒高跳びの注目度が低いことを悔しがっているんですが、この本を切っ掛けに興味を持つ人もきっといると思います。

【2Fポピ F913.6/マハ】



雨降る森の犬  
 ≪集英社≫ 馳 星周/著



【B913.6/ハ】

血のつながった家族よりも、血のつながりのない人のほうが信頼できる…という経験はありますか？

主人公の広末雨音は、恋人を追いかけてアメリカへ移る母とではなく、長野にいる伯父・乾道夫のもとで生活することを選択します。雨音は、道夫と道夫の飼い犬・ワルテルとの生活や、隣人の

国枝正樹との交流の中で、求めている家族のかたちを見つけ、自分の本当にやりたいことに出会います。

雨音の、母親との関係に悩む心情や、長野でできた友人とのやり取りは、中高生の皆さんにきっと共感してもらえるはず！

この本の読後には、物語に登場する料理が食べたくなったり、犬を飼いたくなったり、カメラや登山を始めたくなるかもしれません。

今、周りの人間関係に悩んでいる人は、一度その関係から離れてみることや、本の中に信頼できる人を探すのも、一つの手だと思います。

雨音と、道夫、正樹、そしてワルテルとの関係性が、人付き合いの参考になるかも…？

モブなのにすごいことしちゃった！日本史の偉人たち  
 ≪朝日新聞出版≫ 大澤 研一/監修, 伊野 孝行/イラスト  
 笠井 木々路/編・文, 朝日新聞出版/編著

みんなは偉人といえば誰を思い浮かべますか？織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑？それとも幕末の風雲児、坂本龍馬？

偉人と呼ばれる人たちはたくさんいますが、その中には例に挙げたような超有名なたちの功績に隠れてあまり目立っていない人も…。この本では、やったことは間違いなくすごいのに、いまいち注目されない偉人たちのことを「モブ」と定義。そんなモブたち全70人の活躍をイラストと共に紹介していきます。

現存する世界最古の会社の創業者に、何度も戦に負けて城を奪われた戦国最弱の武将（しかしその度に城を取り戻す！）、日本人で初めて人工の飛行装置で空を飛んだ人等々…載っているのは本当にすごい人ばかり。中には、日本史の授業で習う出来事に密接に関わっていた人も。

教科書の内容の陰でこんな事していた人たちがいたのかと思うと、歴史の授業が楽しくなること間違いなしの一冊です。



スマホゲーム依存症  
 ≪内外出版社≫ 樋口 進/著

現代を生きる上で必需品とも言えるスマートフォン。まだ5、6歳くらいの子どもの待ち時間に親のスマートフォンでゲーム、なんて光景もよく見るようになってきましたね。

そのスマホゲームの危険性について説明しているのが本書です。どうして依存症になるのか、何が危ないのか、どう治せばよいのかが載っています。

かくいう私も学生の頃はスマホゲームにどっぷりでした。やめたきっかけは、課金しても欲しいものが出ずに虚無感を味わうよりも、本や据え置きゲームで払った金額に見合った満足感を得られるほうが良いと気づいたからなんです。

…って、結局娯楽に依存してるのは変わってないじゃん！！



【2F ポピ H/493.7/ス】



パート・オブ・ユア・ワールド（上・下）  
 ≪学研プラス≫ リズ・プラスウェル/著, 池本 尚美/訳



誰もが一度は読んだり見たりしたことがある(はず!)の『リトル・マーメイド』。主人公の人魚姫が陸の世界に憧れ、恋に落ち、困難な目に遭いつつも最後にはハッピーエンドを迎える…。ディズニーの物語はほとんどがハッピーエンドで終わります。でも考えたことはありませんか？もし主人公が負けてしまったら、もし主人公がこの始まりでなかったら、もし主人公がハッピーエンドで終わらなかったら、もし、ヒーローやヒロインではなくヴィランが勝利したら…。

この『パート・オブ・ユア・ワールド』は、本来のお話とは違い魔女アースラに破れた【2F TF/933/7】5年後のお話として書かれています。正史では見ることのできない、多くのもしもに溢れたゆがめられた世界！一度完成された作品を新たにダークな視点で語り直したこの本を、当時『リトル・マーメイド』を読んでいた自分を思い出しながら読んでください！主人公と共に、成長して少し物事の見方や考え方が変わった自分に気づくかも…



### こんなところにいたの？ 《誠文堂新光社》 林 良博/監修、 ネイチャー&サイエンス/編



【481.7/コ】  
今回は、3割学び、7割遊び感覚で楽しめる本を紹介しします！  
自然界で擬態している様々な生き物たち。この本では、彼らが実際に擬態している写真と、生態、その他の豆知識が紹介されています。一見するとただの風景写真の、どこに生き物が擬態しているのか、ゲーム感覚で探せます（ちなみに私はp.22とp.43の生き物がどこにいるのか全くわかりませんでした…）。生存競争の厳しい自然界で生き抜くために、精巧な擬態を身につけた生き物たちの姿をじっくり楽しんでみてください。写真を遠くから眺めると、生き物を探す難易度がより上がります！

また、この本の解説の文章もウィットに富んでいて、とても面白いのでおすすめです。生き物たちの擬態の解説に、ちょっぴり皮肉と悲哀を混ぜた文章で、どんどん読み進められます。

楽しく擬態生物について調べ、生き物探しゲームとしても使える（！？）一冊です。

勉強の合間の息抜きにいかがでしょうか？

### 本を守ろうとする猫の話 《小学館》 夏川 草介/著

書店を営む祖父と二人暮らしをしていた夏木林太郎。しかし、突然祖父が亡くなり、学校へも行かず書店にこもって、叔母の家に引き取られる日が来るのを待ただけの日々を過ごしていた。そんな林太郎の前に、人間の言葉を話すトラ猫が現れる。その猫は、本を解放するために協力してほしいと言ってきて…。

本に対する考え方を通じて、自分の殻に閉じこもっていた林太郎が変わっていく姿を描いたお話です。展開はファンタジーのようですが、林太郎が対峙する、本を閉じ込めている人たちの主義や主張は、まさに本を取り巻く現状を物語っているものばかり。本の価値とは、何のために本を読むのか、深く考えさせられます。そして、そんな難しい問題に対して、祖父が生前に語った言葉をヒントに林太郎がたどり着いた答えに読者は共感し、心打たれます。本が好きな全ての人に読んで欲しい物語です。



【F913.6/ナツ】



### ぼくがスカートをはく日

《学研プラス》 エイミ・ポロンスキー 著

LGBT という言葉が取り上げられるようになって早数年。岡崎市内でも一部の学校では女子でもスラックスをはけるようになるなどの変化がありました。が、「自分は関係ないしよくわからない！」という人も少なくないのではないのでしょうか。そんなあなたにおすすめなのがこの本です。

主人公は、アメリカの小学校に通う、身体の性別は男性の子ども。自分の着たい服について悩んでいると、学校行事で劇のオーディションが開催されることに。しかもその主役は女の子であることを知ります。それまで誰にも悩みを打ち明けてこなかった主人公。果たして望みは叶うのでしょうか…

性自認のアウトティングや、周囲の反応について、丁寧に描いた作品です。



【2F 子ども 933/ホ】



### 小さな星の本

《リベラル社》 渡部潤一/監修

みなさんは夜空を見上げたときに、いくつ星座を見つけられますか？たくさんの星座を瞬時に見つけられる人は、あまりいないのではないのでしょうか。

太古の昔から、人々は夜空の星を見て、物語や美術品を創作してきました。特に星座の成り立ちと物語は、切っても切れない関係にあります。

この本では、春夏秋冬の星座とその見つけ方が紹介されており、世界各地の絶景星空スポットの紹介や、宇宙や月について、星をモチーフにした文学作品や芸術作品についても書かれています。

中々自分では星座を見つけられない人も、この本を参考にして、自分の目で星座を探してみてください。わかる星座が増えると、いつもは何気なく見上げている夜空がまた違って見えるようになるかもしれません。

是非この本を読んで、星と宇宙の世界にどっぷり浸ってみてください。

